

【国際研修】「インドネシア・バリの開発、環境、生活」

研修のテーマ：年間500万人の国際観光客が訪れる東南アジア有数の観光地であり、「楽園」と称されてきたインドネシア・バリ島が直面する社会文化的問題を研究者や現地 NGO 等から学んだり、現地学生たちと議論したりすることで、持続可能な開発やポスト・コロナ時代の観光のあり方について考える。

○研修日程：2021年2月15日～2月24日（水）（土日、祝日は除く）

スケジュール：※2限は11時開始、3限は13時開始、4限は15時開始になります。

○企画責任者：岩原紘伊 国際交流センター特任講師（専門：文化人類学、インドネシア地域研究）

○対象：前期課程生

・2月15日（月）3限：イントロダクション、4限：インドネシア及びバリの社会文化についての概説（2限とも岩原が実施）

・2月16日（火）3限：キャロル・ウォレン准教授（Murdoch University、アジアリサーチセンター）による講義

<詳しい経歴や論文はこちら>

https://www.researchgate.net/profile/Carol_Warren4

講義内容：バリの開発問題について、バリ・ヒンドゥ文化や観光開発をめぐるポリティックスから解説

4限：イ・アグン・ワルダナ講師（ガジャマダ大学法学部環境法学科）による講義

講義内容：現代バリの観光開発による環境へのインパクトについて文化的な側面から解説

<詳しい経歴や論文はこちら>

<https://ugm.academia.edu/AgungWardana>

※2つの講義はガジャマダ大学法学部の学生と一緒に受け、各講義の後にディスカッションを行い意見交換をします。

・2月17日（水）3限、4限：インドネシア・バリの国立大学ウダヤナ大学日本語学科の学生によるバリ文化の紹介および現代バリの環境問題について意見交換を行います。

・2月18日（木）3限、4限：伝統建築の見直し活動を行っているイ・グデ・クリシュナ氏による持続可能な建築文化についての講演およびワークショップ

※クリシュナ氏が主宰する Rumah Intran についてはこちら

<https://www.youtube.com/watch?v=QnVKjkjV8Qw>

・2月19日（金）2限、3限：イ・ニョマン・ダルマ・プトラ教授（ウダヤナ大学文学部教授）による講義

講義内容：観光のためにバリ文化がどのように利用され、作られてきたのか、そして観光がヒンドゥ文化に与えているインパクトについて解説

<詳しい経歴や論文はこちら>

<https://scholar.google.com/citations?user=tIBZEL8AAAAJ&hl=en>

・2月22日（月）2限、3限：環境 NGO ウィスヌ財団による講演とワークショップ

内容：バリの環境問題や文化問題に対する NGO のアプローチやインドネシア的な文脈について解説

ウィスヌ財団についてはこちら

<http://www.wisnu.or.id/>

ウィスヌ財団は、1993年にバリに設立された NGO です。地域開発プロジェクトや環境教育等をブリティッシュカウンシルや USAID といった海外の援助機関と協力して行っています。

・2月24日（水）3限、研修のまとめ及び報告書作成に向けた成果報告

○研修参加費用：なし

○付与単位：2単位（他の国際研修と重複して履修することも可能です。単位の取得のためには、原則として全日程参加してください。）

○使用言語：英語と日本語（ウダヤナ大学の学生との交流部分）

※英語使用が中心の研修ではありますが、高度な英語運用能力は求めています。

ぜひチャレンジをしてみてください。

○ガイダンス参加の有無は履修に影響しません。

今回、ゲスト講義を担当してくださる先生方は、国際的にも活躍されているインドネシア研究者の方々です。ぜひ、第一線で活躍されている先生方から講義を受け、知識を吸収してください。新型コロナウイルスの流行が収束し、再び海外へ渡航できるようになった際に、研修での経験はさらにグローバルな視野を開くための糧となると思います。